

# KEYAK!

7月号

この時期の天気の良い日、突然にこだまする奇声とも歓声ともとれる、いつもの園から聞こえるそれとはまったく異質なものです。プールです。

なんででしょう。アーとキャーとワーにヴァーが入ったような声を1オクターブ以上の高い音で出しているとした言いようがありません。その場にいなくてもその「異変」にはすぐ気付きます。あその声を意識して出そうとすれば、きっとおそろしい顔で絶叫するしかないと思うのですが、それをあんな嬉しそうな顔で出せるなんてアンビリーバボーです。彼らのココロの叫びであり歓喜のうた、なのでしょう。あれだけの声を出せば、そのあと疲れることはあっても気分が暗くなることはないと思います。絶叫ではないにしろ、「声を出す」ことがその日一日の「覇気」に繋がっているような気がしてなりません。

あいさつに生まれればそれに越したことはないのですが、例えば年少さんなら語彙の発達にも繋がりますし、年中さんならコミュニケーション能力の発達、年長さんなら自信や勇気といった、園生活の充実感・のちの社会生活にも前向きに取り組んでいけるような気がします。

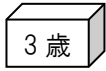
おこりんぼさんだって、自分なりの覇気の持ち方なのかもしれませんね。

一方で、「目は口ほどにものを言う」とも言われます。あいさつする気持ちはあるけど恥ずかしい、声に出したいけどうまく表現できない・・・大人でも抱く感情や感覚を子どもたちだってしっかり持っています。子どもの「顔色を伺う」のではなく、「表情を読み取る」「姿を追ってみる」ことでその子にどんな関わりをすればよいのか、直接的にでも間接的にでも接し方を考えられると、一方的にはならない「やわらかさ」が生じるのではないだろうかと思っています。このやわらかい部分が、大人と子ども（保育者と子どもたち）を結びつけていくよいクッションになっているはずです。あ、これ先生たちに言わなきゃねえ。

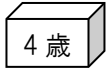
夏休みの前に、年長のお泊まり保育含めあそびに活動たくさんあります。子どもたちにもうひと転がり、自分が少し大きくなったことを実感できるようがんばります。

けやきっこわくわくコンサートありがとうございました。お団子参観も保護者のみなさんのコミュニケーションツールをいかに発揮していただき、子どもたちがいいダンゴ印象を残せるようご協力のほど、よろしく願いいたします。

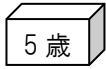
今月のねらい（育ってほしい姿や経験してほしいこと）は  
クラスだよりでお伝えします



- ・ 自分で「やってみたい」という気持ちを持って、身の回りの始末など、自発的に取り組もうとする
- ・ 「入れて」「いいよ」などのやりとりの中で、友達と遊ぶ楽しさを知る
- ・ 水遊びやプールあそびを通して、開放感を味わう



- ・ 経験したことをイメージし、ごっこ遊びに取り入れようとする
- ・ 保育者や友達と一緒にいろいろな水遊びを楽しみ、開放感を味わう
- ・ みんなで使うものを大切に扱い、自分でできることをやってみようとする



- ・ 工夫して必要なものを作ったり、様々な表現を楽しむ
- ・ 友達の思いや自分とは違う意見があることに気づき、受け入れたり、遊びや活動の中に取り入れたりしようとする
- ・ グループごとに協力し、助け合い、励まし合って行動できる
- ・ テーマに沿って意見が言えたり、自分たちで1つの納得できる結論をだせる